

揭秘

NLPT

根据2010最新考纲编写

新 日本语能力测试

主审／菅阳子（日）
主编／孙文选 李振东

 佳禾外语
JIAHEWAIYU

听解

新試験完全対応！

- 考点分频排序，科学布局由重及轻。
- 主题领域划分，解题技巧各个击破。
- 重点词汇总结，点睛考点尽在掌握。
- 考试动向揭秘，通关要诀急速引航。

附赠
500分钟超长
MP3光盘

N2



外文出版社
FOREIGN LANGUAGES PRESS

揭秘

NJLPT

新日本语能力测试

主审／菅阳子（日）
主编／孙文选 李振东
副主编／郗胜 厚俊楠

 佳禾外语
JIAHEWAIYU

N2

听解



外文出版社
FOREIGN LANGUAGES PRESS

图书在版编目(CIP)数据

揭秘新日本语能力测试 N2 听解 / 孙文选, 李振东主编.

北京: 外文出版社, 2010

ISBN 978-7-119-06347-8

I. ①揭… II. ①孙… ②李… III. ①日语—听说教学—水平考试—自学参考资料

IV: ①H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 052251 号

责任编辑: 刘承忠 王际洲

装帧设计: 佳禾书装

印刷监制: 张国祥

揭秘新日本语能力测试 N2 听解

主 编: 孙文选 李振东

©2010 外文出版社

出版发行: 外文出版社

地址: 北京西城区百万庄大街 24 号 邮政编码 100037

网址: <http://www.flp.com.cn>

电话: (010) 68320579 / 68996067 (总编室)

(010) 68995844 / 68995852 (发行部)

(010) 68327750 / 68996164 (版权部)

印 制: 北京海德伟业印务有限公司

经 销: 新华书店 / 外文书店

开 本: 787×1092mm 1/16

印 张: 20

字 数: 432 千字

装 别: 平

版 次: 2010 年第 1 版 2010 年 7 月第 1 版第 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-119-06347-8

定 价: 36.00 元 (附赠光盘)

建议上架: 外语

版权所有 侵权必究 如有印装问题本社负责调换 (电话: 68995852)

前言



日本语能力测试(JLPT)是由日本国际交流基金会和日本国际教育协会为全世界的日语学习者设置的一项国际性日语水平考试,参加考试的人数从1984年的7000人左右增加到2008年的56万人,是世界上规模最大的日本语考试。

从2010年起,日本语能力测试的题型以及考查重点发生了重大变化,考试级别也由原来的四个变为五个:N1(稍高于原来的一级水平),N2(相当于原来的二级水平),N3(相当于原来的二级和三级之间的水平),N4(相当于原来的三级水平),N5(相当于原来的四级水平)。N2的考试题型由原来的“文字·词汇”“听解”“读解·文法”三部分变为“语言知识(文字·词汇·文法)·读解”和“听解”两部分。考试时长为“语言知识·读解”105分钟,“听解”50分钟。分值比例为“语言知识”“读解”“听解”各占60分,总分180分。考试仍然延续选择题的形式,暂不加入口语和书写方面的考试形式。

另外,在此次改革当中,所有考试级别中的听解部分所占比重均由原来的四分之一增加到三分之一,可见听解部分在整个考试中占据了更重要的位置。

为了配合这次日本语能力测试的重大改革,我们潜心研究新考试大纲,准确把握改革动向。同时,结合对1991~2009年历年真题进行的数理分析,就日本语能力测试中听解部分的出题规律进行了总结,并进一步给出了解题建议,力求使考生不但能掌握在备考时应掌握的重点,而且还能学到应试技巧。

与同类型的其他图书相比,本书具有以下特点:

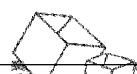
- (1)具有建立在科学而系统的数理统计分析基础之上的听力出题规律分析;
- (2)分门别类地收录了1991~2009年度共19年的听力试题;
- (3)根据新考试大纲进行大胆预测,加入“即时应答”和“综合理解”两大题型;
- (4)根据类别对文字资料和音频资料进行了新的编排,便于“视”“听”结合;
- (5)依据出题概率和所属级别的统计结果,将听力材料分级排序,方便读者有针对性地学习;
- (6)运用定量与定性相结合的应试技巧分析,涉及内容广泛,启发考生的学习思路。

在编写本书的过程中,参考了国内外的相关书籍,在此一并向各位编者、译者表示感谢。同时,特别鸣谢大连市日本语教师协会所给予的大力协助。

由于编纂工作浩繁,失误在所难免,望广大读者、同仁不吝指正,共同进步。

编 者

目录



第 8 章 存续状态 & 结果 206

 第 1 节 状态 208

 第 2 节 结果 211

第 9 章 方法 & 手段 216

 第 1 节 生活 218

 第 2 节 工作 224

 第 3 节 学习 227

第 10 章 数字 & 图表 235

 第 1 节 数字 239

 第 2 节 图表 244

第 11 章 人物描写 254

 第 1 节 内部 256

 第 2 节 外部 258

第 12 章 天气 & 气候 271

 第 1 节 天气预报 273

 第 2 节 自然灾害 275

第 13 章 即时应答 278

第 14 章 综合理解 297



序 章

第 1 节 本书的特色与构成

日本語能力测试(The Japanese Language Proficiency Test 简称 JLPT)将于 2010 年起实施新的考试方案。根据已公布的考试方案可知,改革后的 N2 试题的构成,由过去的文字·词汇、听力、读解·语法三大部分调整为语言知识·读解、听力两大部分;考试时间由原来的 145 分钟增加到 155 分钟;分值由原来的 400 分调整为 180 分。从考试时间和分值分配上来看,N2 新题型中,听力考试所占的比值进一步增大,考试时间由原来的 40 分钟增加到 50 分钟,在整个考试时间中所占比重由 28% 增加到 32%,分数的比值由原来的 25% 提高到 33.3%。这一变化说明听力测试在 JLPT 考试中变得越发重要了。因此,听力考试应该得到考生们的足够重视。然而,从历届考生反馈的信息可以得知,听力考试是许多考生的弱项。针对这一问题,我们基于前人的研究成果,利用数理分析方法对历年的试题进行了分类整理并附加了新题型的练习,以期开启考生的思路,从而提高考生的听力考试成绩。

本书具有以下特点:

1. 内容涵盖面广

本书涵盖了从 1991 年到 2009 年 12 月的听力考试真题,内容全面。在汇总的过程中我们发现,听力部分的考题,除了 1991 年至 1994 年为问题 I、问题 II、问题 III 三个题型外,其他年份则分为有图题和无图题两大部分;从内容上又分为对话类和非对话类两种。过去受听力内容长短等因素的影响,每年题数在 24 道至 27 道之间,从公布的新考试方案来看,2010 年后考试的题量有所增加,约在 32 道左右。同时题型也有所变化,但除了“即时问答”类考题除外,其余考题都保持了原有题型。因此可以断定,新考题大多是形式的变化,内容则不会有太大的变化,听练历年的真题仍是提高分数的有效途径之一。由于收录内容全面,归纳分析详尽,本书同时也适于作为教师辅导用书使用。

2. 试题分类详尽

本书编者尝试着把历年试题按内容分为:选择 & 判断、说明 & 报道、原因 & 经纬、目的 & 观点、时间描写、位置 & 场所、顺序 & 过程、结果 & 状态、方法 & 手段、数字 & 图表、人物描写、天气 & 气候等 12 章。各章均由统计分析,仿真新题型练习,听力原文、答案与要点解析和重点词汇语法总汇四大模块构成。另添加“即时应答”和“综合理解”两章新题型的章节,内容集中、分析详尽,便于学习者学习。

3. 题型紧扣新的考试命题思想(新考试没有公布出题基准和考纲)

根据新的考试大纲,自 2010 年起,听力考试由“課題理解”“ポイント理解”“概要理解”“即時応答”“統合理解”5 种类题型构成。

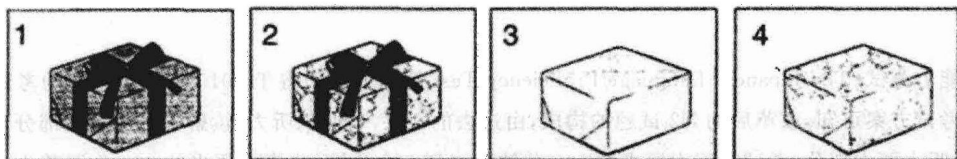
4. 提炼提高听力的方法

(1) 日常多听, 熟悉日语语言环境

据 JLPT 管理机构统计, 在日本应考的考生与在国外其他地方应考的考生相比, 2 级听力的考试成绩要好得多。由此证明, 提高听力要经常“练耳”, 熟悉日语语言环境。听力内容大多是生活中常出现的事件, 词汇量小、语法比较简单。如果每天坚持练习, 一定会取得好成绩。练习听力最行之有效的方法就是边听边记录。这样做有三大好处: 第一, 提高听力水平; 第二, 温习单词; 第三, 提高综合判断能力。

(2) 预测试题内容

通过对历年考题的研究我们得知, 有许多考题的选项是印在试卷上的, 要善于从这些选项中读取有用的信息, 以便预测和判断正确的答案。比如:



此题是 2009 年 7 月份考试中出现的有图题。由图中可以看出是包装的礼品盒。日本人不论送什么样的礼物, 都会包装得很精。如果了解了这些, 就能预测出此题的选项应该是在 1 和 2 中选择。据此再根据所听到的内容找出 1 和 2 的不同点, 就能判断出正确选项。从新的改革方案来看, 之所以增加了听力考试的分量, 就是因为新的日本语能力测试在努力追求对考生实际语言应用能力的考查。因此, 像这样的日本日常生活的常识和热门话题一定是考查重点。

(3) 牢记日语语言表达的省略现象

在听力试题中, 尤其是在对话中有很多省略表达, 如果我们在平时的学习中不注意积累这方面的知识, 就有可能错误理解听力内容, 导致错选失分。

1) 减音和语音的融合

口语交际中的语音常常会发生一些形式上的改变, 语言学把这种现象叫做“语流音变(variation 音变异)”。这种现象表现为“增音”和“减音”两种形式, 前者基于加强语气的目的而“增音”, 后者为音调器官的惯性运动和发音人下意识的“省力”趋向而造成“减音”。在听力对话题中存在着大量的音变现象, 在平时的学习中如果不了解这方面的知识也会影响听力成绩。因此有必要复习下列音变表现:

a. 单纯的减音

- ◎～て(いる)→てる ◎ところ→とこ ◎いやだ→やだ ◎まったく→ったく
◎ほんとうに→つとに ◎そんなことない→んなことない ◎それで(そんで)→んで

b. 音素脱落, 音节重组

- ◎このあいだ→こないだ ◎て(で)おく→と(ど)く
◎～には→～にや(するにはするが→するにやするが)
◎～ちは→～ちゃ(こっちは→こちゃ; こんには→んちゃ)
◎～て(で)あげる→た(だ)げる ◎～て(で)しまう→ち(じ)まう→ち(じ)やう

c. 音素脱落, 发生促音变

- ◎洗濯機(せんたくき→せんたっき) ◎三角形(さんかくけい→さんかつけい)
◎よく効く(よくきく→よっきく) ◎大阪から(おおさかから→おおさっから)

d. 「の」中的元音脱落, 发生拨音变

- ◎の→ん(のだ→んだ; ので→んで→のところ→んところ)

e. 单纯的语音融合

◎コミュニケーション→コミュニケーション

◎十分(じゅつぶん→じつぶん)

◎お前(おまえ→おめえ)

◎高い(たかい→かけえ)

◎美味い(うまい→うめえ)

◎凄い(すごい→すげえ)

f. 伴随语音融合的减音

◎ければ→けりゃ(あ)→きゃ(あ)

◎行けば→いきゃ(あ)

◎やれば→やりゃ(あ)

◎登れば→のぼりゃ(あ)

在听力试题中,这样的省略现象比比皆是。比如:

①このケーキ持って帰って。

②どっちも抜いちやうか。

③バックと同じてに掛けといて。

④女:目立つのはやなの。

男:へえー、十分めたってんのにね。

⑤すっごいわねえ、あんな離れたところから。

2) 表达否定意义时的省略

在日语表达中,日本人为了避免正面冲突,不使对方尴尬,往往很少直接使用“いいえ”这样的否定表达,而采取话说一半的省略形式,这是常用的否定策略。在历年的听力题中,常用“ちょっと”、“ね”、“どうも”等表示否定意义。

①女1:ね、佐藤さん20日休み取れた?

女2:うん、課長には言ったけどちょっと(出来なかった)…。

②男:週末はちょっとね(行けません)…。

③男:月曜日と火曜日とかどうですか。

女:ええと、週の前半はね(都合が悪い)…。

④女1:毎日窓開けている? 換気がいちばんよ。

女2:窓があればね(いいですが、ないのです)…。

⑤女:うちの夫はあまり家事をやらないんです。ぜんぜんというわけじゃないんですが、洗濯だけはどうも(やらない)とおもっているようで。

3) 表达肯定意义时的省略

①男:ちょっと待って、裕紀の時計遅れてるんじゃない(ですか)?

②女:佐藤さん、今度お宅はお庭も出来るんですか。

男:ええ、まあ、一応(出来ます)。

③奥さん:水曜日だけはお店がやすみだから、ゆっくり起きて、9時ごろにしてるんですよ。子供たちは学校があるからいつもと同じだけど(7時ごろ食事します)。ヤンさんはどうする?

ヤンさん:じゃあ、僕朝は弱いので(9時にします)…。

4) 名词的缩略

语言中名词的缩略现象也非常普遍。如同汉语中常用的“人大”“大二”等略语,日语中也常使用的“大卒”“パソコン”这样的略语。在听力试题中常常会出现这种名词的缩略现象。比如:

①店長:君は木曜(日)担当だったよね。

- ② えーと、私は月(曜日)、水(曜日)、金(曜日)だったらどれも大丈夫ですが。
- ③ プロ(プロフェッショナル)並なの。
- ④ とりあえずレジ(レジスター)のチェックをして商品の運び込みはそのあとにしましょうか。

5) 敬语的应用

日语的敬语体系十分发达,应用广泛。这类考题在历年考试中,虽然很少直接作为考点,但是敬语的运用反映了出场人物“尊卑”“上下”“主客”的关系,也体现了日语表达的委婉性和说话者心里的用意,从而影响我们做出正确的判断。比如:

- ① 課長、太陽銀行の佐藤様がお見えですが。
- ② 失礼ですが、どちら様でしょうか。
- ③ 申し訳ありません。田中はただいまほかの電話に出ておりますが。
- ④ 私ではお答えしかねます。
- ⑤ 明日の会議に出席されるかどうか伺つとくように、芝田先生から言われたんですけど。

对学习外语的人来说,练眼(多看)、练口(多说)、练耳(多听)非常重要,在本书编写中我们也试图兼顾这三方面,希望考生能在提高听力的同时收获更多。



第2节 新“日本語能力测试”N2 听解



命题思想・认定标准・问题类型与构成・解答要点

本节内容参照财团法人“日本国际教育支援协会”2009年7月公布的「新しい「日本語能力試験」ガイドブック」的相关内容,结合本书编者的理解和诠释,整理而成。但是,随着新考试的实施,会有一些修改和变化,请随时留意<<http://www.jlpt.jp>>上公布的最新消息。

◇聴解試験が測るもの◇

(1)聴解とは

聴解とは、聞き手が話し手の発話を聞き、課題や目的に応じて、言語知識や話題に関する知識とそれらを利用する能力を合わせて使用しながら、情報を処理し、理解していく過程です。

聴解は、読解と同様、言語を理解する過程なので、両者には類似点が多いと言われています。一方、聴解は文字ではなく音声によって言葉が伝えられるため、聴解の過程には読解と異なるいくつかの特徴があります。

まず、聞き手は、聞こえてくる一連の音声テキストから自分で音声や意味のまとまりを認識する必要があります。例えば、「このお菓子、どうぞ。」という発話は、日本語を学習したことのない人の耳には“konookashidoozd”という意味のない音声の流れとしか聞こえないはずですが、日本語話者はここから/コノ/という一つの音声のまとまりや、「この」という意味を認識していると考えられます。また、音声テキストには、文字で書かれたテキストとは異なる下のような特徴があり、聞き手はこれらの特徴を理解して聞く必要があります。

●音の変化が起こる

(例:「～ている」→「～てる」、「～てしまう」→「～ちやう」等の縮約、「あまり」→「あんまり」等の音の添加)

●音の強調やイントネーションが重要な意味を持つ

●くり返しや言いよどみが生じる

●単語や句の形で話されたり、倒置が起こったりする

●話者間で共有されている情報は省略され、言語化されないことがある

さらに、聴解ではその場でその瞬間に聞いた言葉をすぐに理解しなければならないということも、読解との違いです。聞き手は、録音をしない限り、読み手がテキストを読み返したりゆっくり読んだりするように、自由に音声聞き直したり速度を落として聞いたりすることはできません。したがって、聞き手には音声で提示された情報を即時に処理して理解することが求められます。

以上をふまえた上で、新試験の「聴解」では現実のコミュニケーションに必要な聴解能力を問うことに重きをおき、試験問題をより現実の課題に近づけたものにします。聞き手は、一方的に情報を受け取るだけの受身的な存在ではありません。発話の中から自分が知りたいと思う情報を選びとったり、聞いた情報をもとに行動したりします。具体的な行動をとらない場合でも、聞き手は目的やテキストのタイプに応じて様々な聞き方をしていると考えられます。新試験では、このような、実際のコミュニケーション場面における聞き方のいくつかに焦点を当てて、聴解能力を測定します。

聴解の問題を現実のコミュニケーションに近づけるためには、聞き手がどのような役割で談話に参加し、どのようにテキストを聞いているかも考慮する必要があります。聞き手の役割は、状況によって様々に異なりま

す。例えば、ラジオやアナウンスを聞く状況では、聞き手は話し手の発話の内容を理解するだけですが、対面では、会話している状況では、聞き手にもあいづち、応答、話す順番の交替などが求められます。新試験では、現実場面で求められる聞き手の役割をできる限り問題に反映させたいと考えています。そのため、発話の内容を理解するだけでなく、応答が求められる聞き手の役割を設定した問題を作成しています。もちろん、聴解の試験で、受験者の発話を測定することはできませんので、相手の発話に対する応答の適切さの理解を問うという形で出題します。

(2) 大問(問題形式)のねらい

聴解大問の構成

試験科目	問題の構成			
	番	大問	小問数*	ねらい
聴解	1	課題理解	◇ 5	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う(具体的な課題解決に必要な情報を聞き取り、次に何をするのが適当か理解できるかを問う)
	2	ポイント理解	◇ 6	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う(事前に示されている聞くべきことをふまえ、ポイントを絞って聞くことができるかを問う)
	3	概要理解	◇ 5	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う(テキスト全体から話者の意図や主張などが理解できるかを問う)
	4	即時応答	◆ 12	質問などの短い発話を聞いて、適切な応答が選択できるかを問う
	5	統合理解	◇ 4	長めのテキストを聞いて、複数の情報を比較・統合しながら、内容が理解できるかを問う

*「小問数」は毎回の試験で出題される小問数の目安で、実際の試験での出題数は多少異なる場合があります。また、小問数は変更される場合があります。

注:◆現行試験では出題されていなかった新しい問題形式のもの

◇現行試験の問題形式を引き継いでいるが、形式に部分的な変更があるもの

○現行試験でも出題されていたもの

① 内容が理解できるかどうかを問う問題

N2では、内容理解を問う大問には、「課題理解」「ポイント理解」「概要理解」「統合理解」の四つがあります。

「課題理解」は、ある場面で、具体的な課題の解決に必要な情報を聞き取り、適切な行動が選択できるかどうかを問う問題です。指示や助言をしている会話を聞き、それを受けた次の行動としてふさわしいものを選びます。選択肢は文字かイラストで提示されますが、イラストはできる限り現実の場面で目にするような形で示されており、現実のコミュニケーション場面に近づけた形となっています。課題を明確にするために、問題のテキストを聞く前に状況説明と質問が音声で示されます。

「ポイント理解」は、内容のポイントを絞って聞くことができるかどうかを問う問題です。現実のコミュニケーションでは、聞き手は、話し手の発話から、聞き手自身が知りたいと思うことや興味のあることを聞き取ろうとします。新試験においても、受験者があらかじめ何を聞き取らなければならないかを意識して聞くことができるように、問題のテキストを聞く前に状況説明と質問を音声で示し、また、問題冊子に印刷されている選択肢を読む時間を設けました。N1、N2、N3のレベルでは、話し手の心情や出来事の原因などが理解できるかどうかを主に問います。

「概要理解」は、テキスト全体から話者の意図や主張などを理解できるかどうかを問う問題です。一部の語や発話が理解できるだけでなく、発話全体としてのメッセージが何かを理解することは、現実場面でも求められる聞き方です。このような問題は、発話の一部の理解を問う問題に比べて、より高度な能力を要求すると考えられます。全体を理解する聞き方を問う問題なので、質問と選択肢は事前に示されません。

「統合理解」は、内容がより複雑で情報量の多いテキストについて、内容の理解を問う問題です。例えば、発話者が3名の会話や、2種類の音声テキスト(例:あるニュースと、それについて話し合っている会話の両方を聞く問題)などが含まれます。これらのテキストを理解するには、複数の情報を統合する(比較したり関連づけたりする)必要があります、高度な能力を要求します。

② 即時的な処理ができるかどうかを問う問題

現実の場面においては、一方的に聞くだけでなく、自分も会話に参加しながら他の人の発話を聞く、という状況が多くあります。新試験では、このような状況も出題範囲に反映しました。対話者のいるコミュニケーションでは、発話や応答の適切さを即時に判断する必要があります。そこで、短い発話や状況説明と選択肢のみを聞いて解答する形式とし、即時的な処理ができるかどうかに焦点を当てた問題としました。大問は、「即時応答」です。

「即時応答」は、相手の発話にどのように応答するのがふさわしいかを即時に判断できるかどうかを問う問題で、全レベルで出題します。短い発話とそれに対する応答(選択肢)は音声で示されます。

(3) 聴解で扱うテキストの特徴

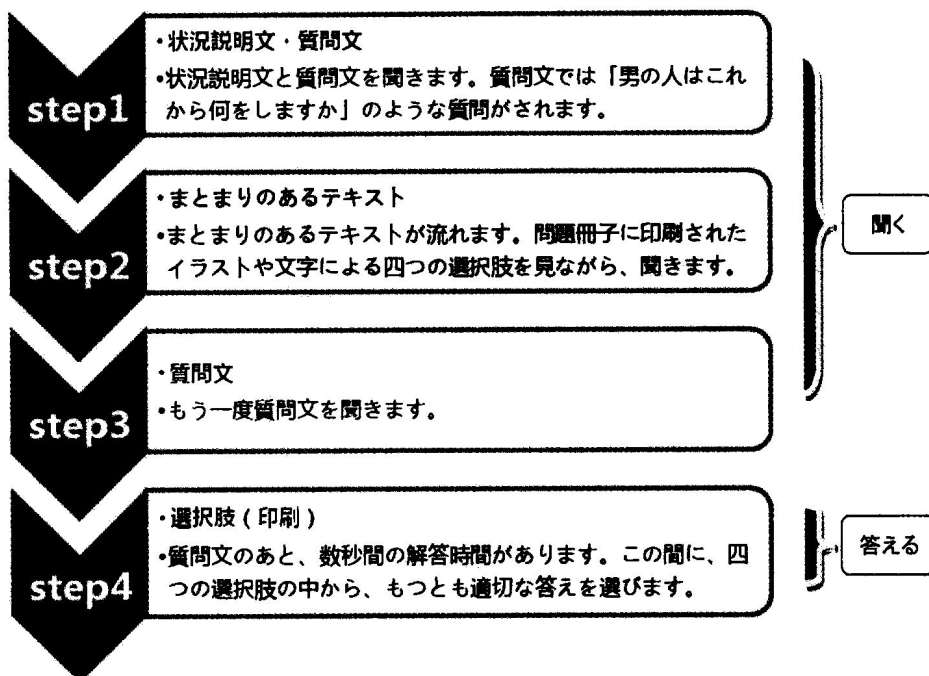
聴解問題では、各レベルで上述の大問(問題形式)のねらいに、らさわしい問題を用意するために、試験問題として作成・録音したテキストを使用しています。現実場面の音声ではないという制約はありますが、その中で最大限現実の聴解に近づけることを目指しています。問題のテキストには「(1)聴解とは」で述べた話し言葉の特徴をできる限り取り入れ、レベルに応じた発話速度や会話の自然さを保っています。ただし、一部の地域のみで使用される方言など、使用が限定されている言葉は含みません。また、二人以上で話されている会話(ダイアログ)と一人で話している独話(モノログ)の両方を含め、話題や場面には「目標言語使用領域」を反映させています。

◇問題解答上の留意点◇

新試験の「聴解」では、①内容が理解できるかどうかを問う問題と、②即時的な処理ができるかどうかを問う問題の二つになり、現行試験から問題の構成が大きく変わります。そこで、「聴解」では、すべての大問について詳しく解き方を説明します。

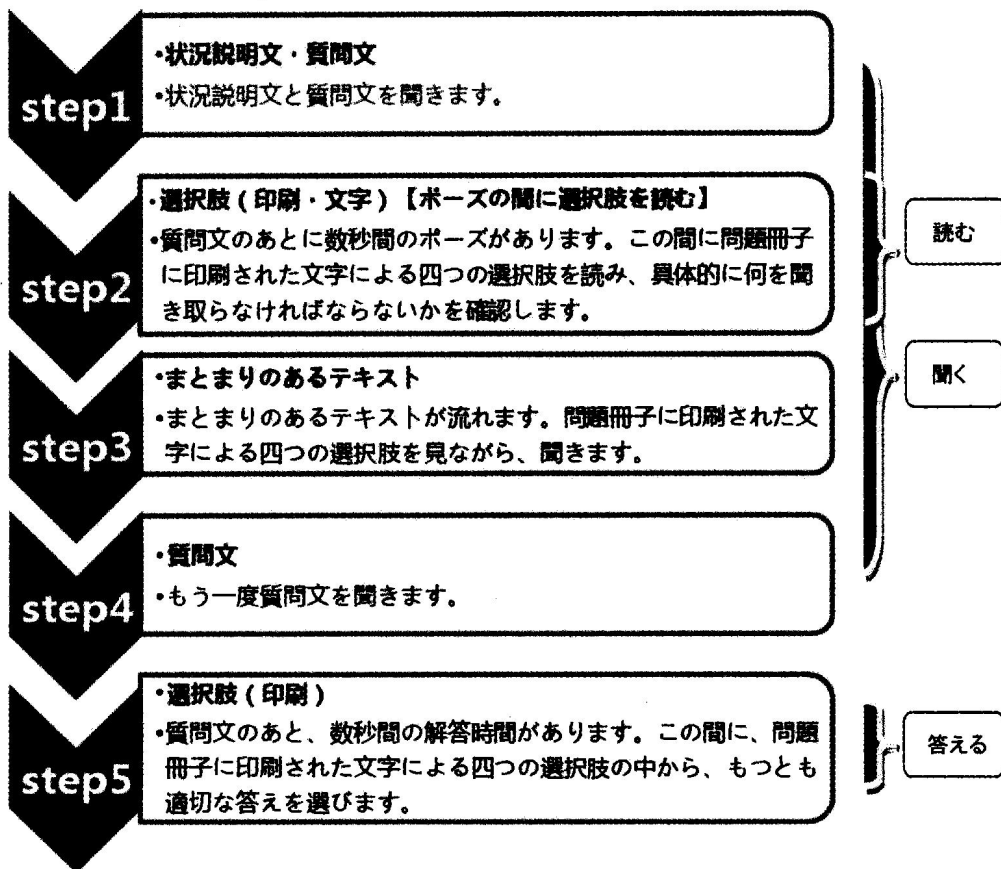
(1) 課題理解

課題理解の流れ



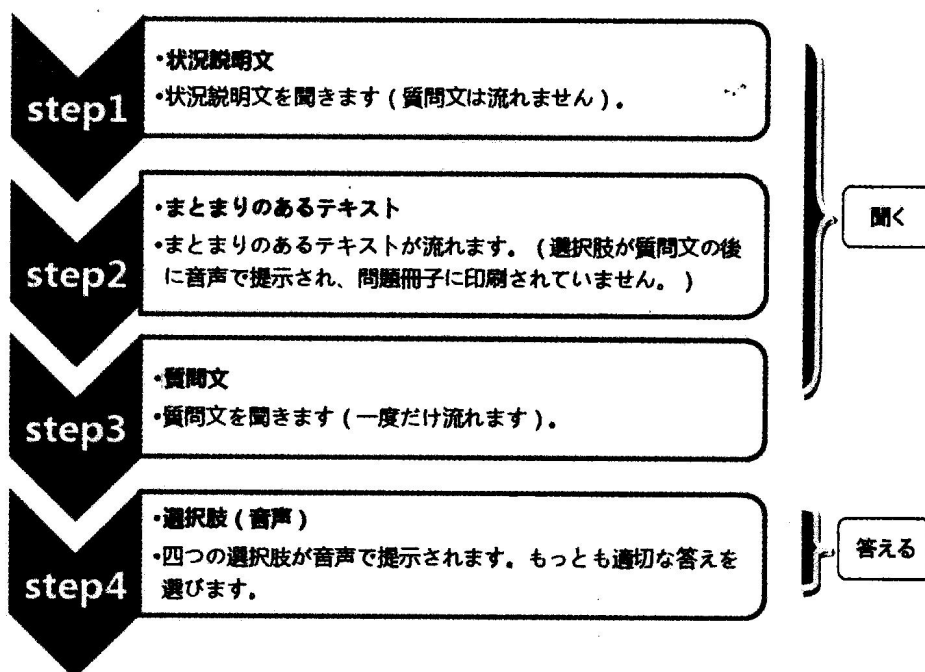
(2) ポイント理解

ポイント理解の流れ



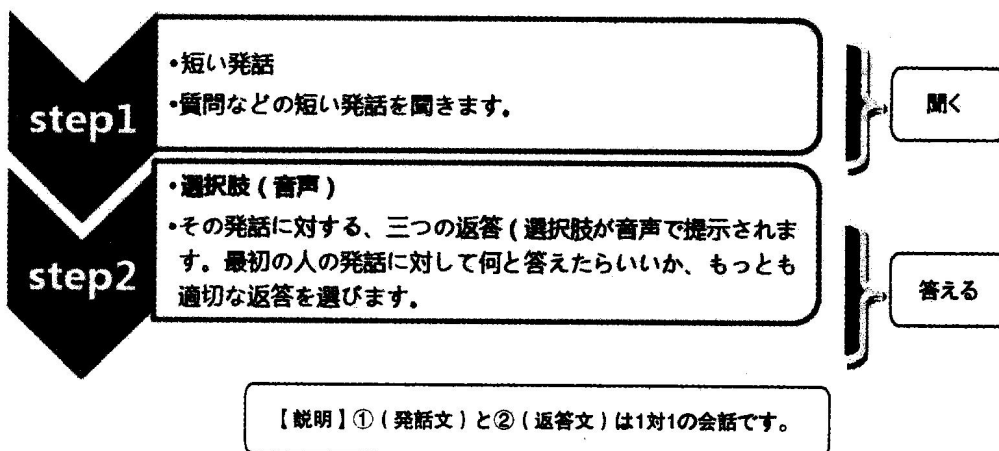
(3) 概要理解

概要理解の流れ



(4) 即時応答

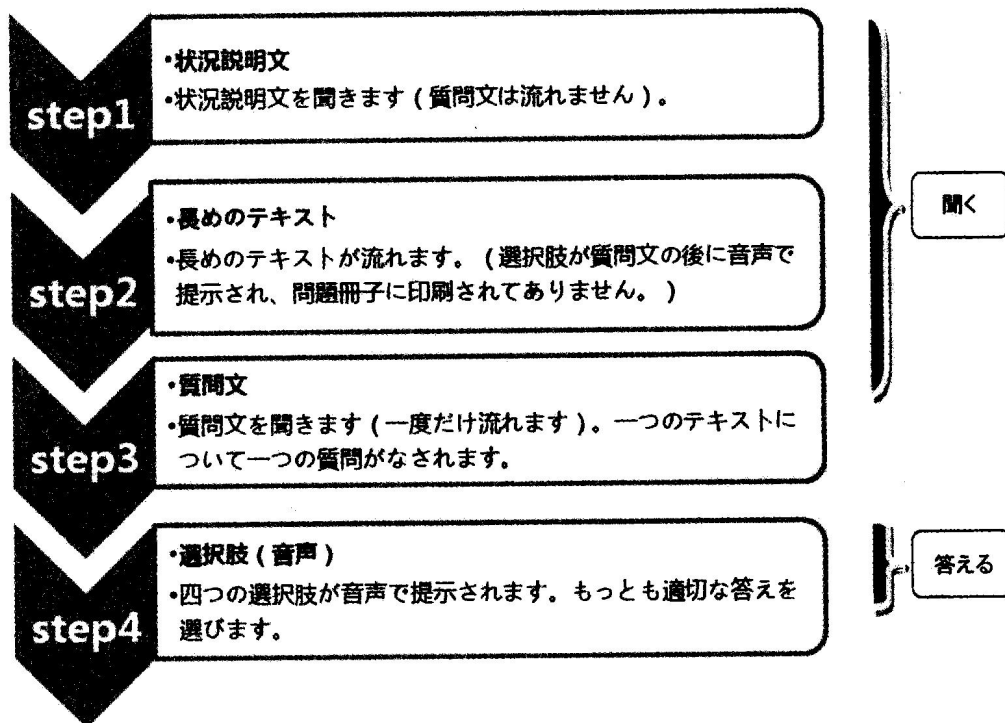
即時応答の流れ



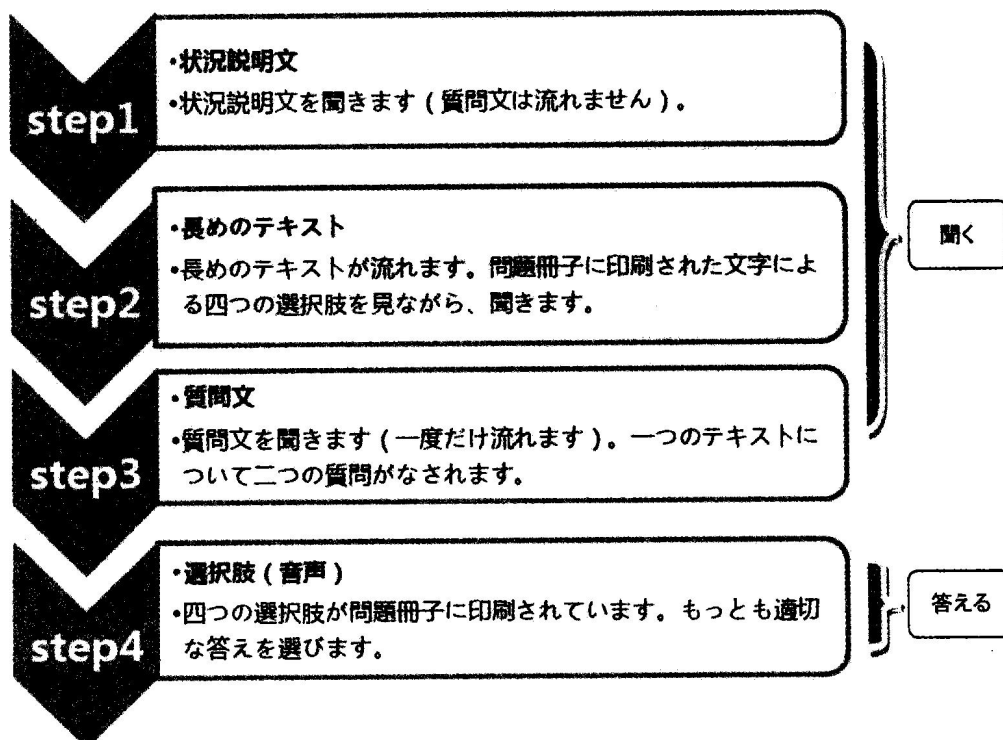
(5) 統合理解

統合理解の流れ

1 番



2 番



第3节 使用说明

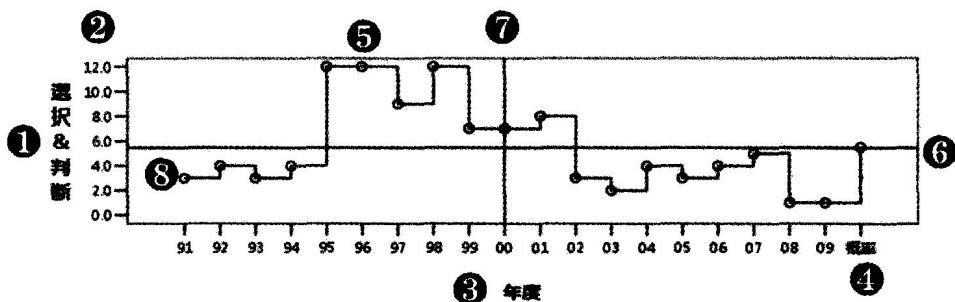
本书是通过 SPSS(社会科学统计软件包)对以往考试和新题型的数据源进行数理分析,在分析结果中出现了许多统计学术语。考虑到广大读者多数是文科生的专业背景,本书中对专业术语做了很大的调整,以便于读者理解。下面,就本书中出现的一些术语和数据的来源进行简单的说明。

1.“综合概率”是本书给出的这一分类问题的综合出题概率值,它是通过对过往历年试题的出题频数(次数)的描述性统计分析并参照新测试的命题思想,使用时间序列预测法中的指数平滑法和移动平均法进行预测,并将相关预测值进行加权平均算得的预测值。该系列预测值是本书的重要研究成果,本书的章节排序也是基于此系列数据。广大读者在备考时,也可以通过下面的计算公式,把自己的备考时间按考试出题的话题领域(即本书中的章节名称)进行时间配置。

JLPT 听力测试备考时间配置计算公式(按测试话题领域)

$$T_{\text{话题领域} \times \text{备考时间}} = \frac{P_{\text{综合概率} \times}}{P_{\text{综合概率}1} + P_{\text{综合概率}2} + \dots + P_{\text{综合概率}n-1} + P_{\text{综合概率}n}} \times T_{\text{备考总时间}}$$

2.“91—09 出题频数时间序列图”是该分类问题在 91—09 年期间每年出题的个数的统计图,并给出了基于平均值的出题概率预测值即上述表中的“91—09 出题概率指数”。



- ① 分类名称(听力考试出题的话题领域)
- ② 出题的频数(次数)
- ③ 统计的年度
- ④ 基于平均值的出题概率预测值(“91—09 出题概率指数”)
- ⑤ 统计年度在序列线上标示符号
- ⑥ 该分类问题在“91—09”年期间出题的平均值线
- ⑦ 统计区间分割线,可将统计图分成“91—00”和“00—09”两部分
- ⑧ 序列统计线

3.“历年考题类型统计”项目统计中的题型分类是指过往考试中的题型。“问题Ⅰ”是有图题,“问题Ⅱ”与“问题Ⅲ”是无图题。

4.“历年考试要点统计”是根据新日语能力测试的指导思想和样题,对过往考试做的考点统计。